平成29年度 自己評価及び学校関係者評価書

平成30年(2018年)3月1日

札幌市立発寒小学校

1 めざす学校

- ・心豊かに学び合い 笑顔と活力に満ちた学校

2 重点目標

- ・進んで取り組み、心豊かに学び合う子どもの育成
「は」はひと あたたく 【思いやる心】
「つ」つよく たくましく 【生き抜く力】
「さ」さらに みがかう 【進取の精神】
「む」むつむ なかまたち 【自立と共生】

未来を拓く 発寒の子

3 本年度の経営方針

「守る教育・攻める教育 発寒100年を目指して」

- ・チーム学校・オール発寒で取り組む学校教育
- ・学年経営、学年研修の強化
- ・PTA、地域との連携強化
- ・今日的課題の改善
- ・学校評価-職員面談-学校説明の充実

3 自己評価・結果

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方向	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
指導の充実	教育課程	A	・学校経営の重点から具体的な子どもの姿を想定し、挨拶、体づくり、学ぶ力の育成に絞って保護者、教職員の自己評価を行った。その結果を評価し後期の教育活動につなげた。 ・行事や地域交流サタデースクールで地域の財産を生かしながら共生を大切にすることを育てることができた。	A	A
	授業	A	・全員授業による日常実践発表会を開催し学びあう子どもの姿を目指した。 ・総合的な学習や道徳、また、サタデースクール等で学んだ地域素材や環境などを整理し、6年間を見通した教育課程の策定に着手した。	A	A
	特別支援教育	B	・交流授業や交流給食で子どもたちは互いを思いやる優しい気持ちを育てた。支援級における教科の授業研究を全校で検討し、インクルーシブ教育の充実を図った。 ・障がい者差別禁止法実施に向けて教育活動を整備している。	A	A
学校評価委員による意見		・中間評価の結果から得た改善方法を、後期の教育活動に生かして成果を得るなどスピーディーな評価は今後も続けてほしい。 ・日常実践発表会の取組で、子どもの学ぶ姿や教師の指導方法に向上が見られる。全ての教職員が研修に取り組む姿勢がすばらしい。			
豊かな心 ◇ 健やかな体	人間関係づくり	B	・学級の間関係を確認する「U-Check」を実施して3年目。児童の実態を深く理解し、教育活動にあたって前より後期より児童の満足度に向上が見られた。 ・学年経営委員会の学年間交流や、学びの支援委員会での困り感のある子や発達についての交流、研修を大切に進めることができた。	B	B
	豊かな心	A	・校外学習や出前授業を積極的に行い社会の様子を学ぶことができた。 ・新しい教科、道徳の研修を深め、それを保護者に公開する学級が多く見られた。 ・いじめ防止基本方針を策定し、組織的にいじめや不登校をなくす取組を充実してきたことで、問題行動が減少している。	A	A
	健やかな体	A	・食育・心と体の教育のほか、携帯安全教室を通して身の安全を守る学習などを進めることができた。 ・交通安全についてPTAやスクールガード、地域、警察と連携して取り組み、危険な通学路では定期的に啓発運動を行った。	A	A
学校評価委員による意見		・これまでの感覚から、特別支援学級と通常級の子どもたちの間に垣根があるのではと漠然と考えていたが、子どもの様子や道徳の実践により、そうした問題は少ないということに安心した。今後もQU検査を有効に活用、継続して豊かな心の育成に努めてほしい。 ・学校経営、学年、学級経営が共通実践され、心と体の育成に積極的に取り組んでいる			
教育環境	環境	A	・外部組織や学びのサポーターにより、体育を中心に、体づくりを行える環境が整いつつある。 ・各教科で使用する教材についても学年・教科間で相談し合い、より学習に役立つ教材を引継ぎ、活用できている。	A	A
	安心、安全	B	・4回の避難訓練を通して(内1回は、当日の予告なしの訓練)発達段階に応じた避難の仕方や態度を身に付けてきている。 ・保護者メール配信→保護者引取という流れが定着している。引き続き、突発的、総合的に対応できるよう継続していく。	A	A
	地域との連携	A	・保護者メールを定期的に配信し、全家庭が登録している。この状態を維持継続していく。 ・サテ-ナル等の参加者が増えてきており、定着してきている。発寒小ファンクラブ主催の土曜の学びの場づくりも動き出している。100周年を見据え、学校と保護者が一体となって地域に働きかける必要がある。	A	A
学校評価委員による意見		・地域が子どもたちとのかわりを楽しんでいる様子が見られる。挨拶の向上もそれと関係していると思う。 ・子どもの安全を守ることが何より大切である。地域や関係機関と連携を密にして、今後も進めてほしい。 ・今後も情報発信をしてほしい。			

評価ABCDIに関して

A : 十分達成した

B : ほぼ達成した

C : あまり達成しているとはいえない

D : 達成に不十分